

▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽

ひろしま遊学の森 広島県緑化センターメールマガジン VOL. 343 H29. 6. 21

△▽△▽▼▲▼▲▽△▽△▼▲▼▲▽△▽△▼▲▼▲▽△▽△▼▲▼▲

本日、1年で最も日が長くなる日、夏至を迎えました。梅雨らしくない天気が続いていましたが、ようやく恵みの雨が降り始めました。現在園内には霧がかかり、気温も23℃と過ごしやすいです。

★ 開花情報

チュウゴクボダイジュ（中国菩提樹）アオイ科シナノキ属（写真1左）

属名シナノキのシナの由来は諸説ありますが、一説によると、縛る・結ぶというアイヌ語に因み、種名の「チュウゴク」は中国地方に因みます。昭和45年、安芸高田市八千代町の土師ダム建設工事中に湖岸で発見され、2年後の昭和47年に新種として発表された落葉高木です。緑化センターにある株は、平成18年に国土交通省及び安芸高田市のご好意により移植されました。葉は左右非対称の卵形で長さ7~12cm、葉柄は2.5~6.5cmと長くなります。花は7月頃、へら状の総苞葉の途中から下向きに花序をだし、黄色い花を10~20個つけます。果実は楕円形で稜があります。中国地方や大分県に稀に自生する近似種マンシュウボダイジュは葉の基部がへこみ、葉柄がやや短く、果実は球形で稜がない特徴を持ちますが、2種を同種とする考えもあります。

場所：多目的広場

クマノミズキ（熊野水木）ミズキ科ミズキ属（写真1右）

名前は三重県の熊野に因みますが、本州から九州の山林に自生し、県内でも普通に見られます。樹形は落葉高木で高さ8~12mになり、葉は対生します。6月頃、枝先に径10cm程の花序をつけ、黄白色の小さな花を多数咲かせます。同じ仲間のミズキは花の時期が1か月早く、葉が互生し、冬芽はクマノミズキのような黒っぽく尖った裸芽ではなく、多肉質の球状になる鱗芽（りんが）になります。

場所：東山作業路他

ナナミノキ（七実の木）モチノキ科モチノキ属（写真2左）

西日本を中心に分布し、山地の常緑樹林内に自生する常緑高木です。名前の由来は、たくさん実をつける木とする説がありますが、異説もあります。5~6月に葉腋と呼ばれる葉の付け根から花序を出し、淡紫色の小さな花をたくさんつけます。写真は雌花で10~11月に赤く熟します。葉は長さ10cm前後で互生し、浅い鋸歯縁があり、カシ・シイ類に少し似ています。

場所：わんこひろば下法面

キササゲ（木大角豆）ノウゼンカズラ科キササゲ属（写真2右）

中国大陸原産の落葉高木で古くから植栽され、時に河岸などに野生化しています。6~7月、枝先に長さ10~25cmの花序を伸ばし、黄白色で漏斗状の縮れた花をつけます。花卉の内側には濃紫色の斑紋が入ります。キササゲの名は、マメ科の野菜ササゲに似た果実をつけることに因みます。別名のアズサは、生薬名「梓実（シジツ）」の「梓」の字の訓読みです。

場所：作業者裏、薬草園

この他、シャラノキの別名でも知られるツバキ科のナツツバキや、オトギリソウ科で黄色い花をつけるキンシバイ（写真3左）、西アジア原産で赤く甘酸っぱい果実に熟すザクロ（写真3右）の花も咲き始めました。

★園内見頃状況まとめ

咲き始め	キンシバイ（写真3）、ザクロ（写真3）、ナツツバキ、ナンテン、タチバナモドキ、オカトラノオ、タケニグサ 他
見頃	チュウゴクボダジュ（写真1）、クマノミズキ（写真1）、ナナミノキ（写真2）、キササゲ（写真2）、タイサンボク、ウメモドキ、イワガラミ、アジサイ、カシワバアジサイ 他

※最も早い開花情報発信はツイッターになります

アカウント名 @Ryokkacenter

URL <https://twitter.com/ryokkacenter>

ぜひご利用ください。



写真1左 チュウゴクボダジュ（多目的広場） H29.6.19



写真1右 クマノミズキ（東山作業路） H29.6.20



写真2左 ナナミノキ (わんこひろば下) H29.6.20



写真2右 キササゲ (桑草園) H29.6.20



写真3左 キンシバイ (見本園) H29.6.20



写真3右 ザクロ (見本園) H29.6.20